

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200640		
法人名	社会福祉法人武蔵野福祉会		
事業所名	グループホーム四季の丘		
所在地	本庄市児玉町飯倉170-3		
自己評価作成日	平成22年3月7日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念が「地域と共に」であり、ケアハウス・通所介護・居宅介護支援事業所・地域密着型特別養護老人ホームが整備され連携を図っている。住み慣れた地域で家族や地域の人たちとのつながりを大切に、人生の四季を豊かに暮らしていただけるホームでありたいと願っており、私たち職員は、支え支えられ共に生きる存在でありたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りを畑と点在する林に囲まれた静かで自然豊かな見晴らしの良い丘にある2ユニットのグループホームである。隣接して同一法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援センターがあり、連携を取って運営している。事業所の方針で、月一回は家族の面会を依頼しており、家族とのつながりや、連絡、報告等を大切にしている。地域の要望で立ち上がったグループホームであり、設立当初は重度の入居者を受け入れて、地域に貢献してきた経緯がある。理念である「地域とともに」を実践し、共に支え合って生きることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念そのものが「地域と共に」であり、地域で生活を営んで来られた皆様に、住み慣れた地域で豊かに生活を送っていただけるよう取り組んでいる。	「地域の中で共に過ごしていきたい」という理念のもと、職員研修や朝礼、夕礼の機会に、管理者が話をして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、敬老会への招待や、子供御輿の訪問等交流を行っている。	地域の要望で設立されたホームであり、理事が自治会の役員でもある。地域の行事等で住民との交流があり、近隣の方もよく訪ねて来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問やボランティアスクール等で周知に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や民生委員の方からもご意見をいただき、サービスの質の向上に努めている。	会議は年5回実施された(予定は6回)。そこで防災等に関する話し合いが行われた。出席者の質問に対して職員アンケート等を行い、結果を報告して話し合い、意見を介護の実践に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の結果報告や、福祉課との相談等協力関係を築くよう努めている。	定期的に報告を行い、必要な時は相談を行っている。市の担当者も理解があり、良い関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束・施錠をしない施設」である旨を職員やご家族にも周知しており、開設当時からこのケアの基本でありその実践に取り組んでいる。	研修を数回行い、全職員の理解、認識は出来ている。抑制をしない為に低床ベッドを使用し、玄関ドアにはチャイムを取り付けて鍵を掛けない等、身体拘束をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において学ぶ機会を持ち、日々の業務の中でも言葉使い一つにも注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は十分な時間を設け、わかりやすく丁寧に説明を行い、ご理解・ご納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望はケアの質をよりよくする為の提言と捉えている。ご希望やご意見がケアに反映出来るよう取り組んでいる。	ホームの方針として、家族等に月一回以上のホーム訪問を促す為、利用料支払いを振込みではなく持参してもらい、面会の機会としている。その際、管理者や職員が家族の意見、要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務において、自由に意見や提案ができる雰囲気作りを努め、ケアに反映させる努力をしている。	月一回の職員会議やユニット毎に行われるユニット会議で意見を出し合っている。管理者は職員から出された意見や提案を聞き、実践方法等を話し合い、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりが目標を定め、意欲を持って仕事に取り組んでいけるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながらスキルアップできるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアマネージャー研修会の事例検討会や学習会に参加している。管理者は他事業所の管理者と交流があり、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、また入居されたあとも会話する機会を多く持ち、生活に対する意向や希望を伺わせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちや困りごとを共有し、精神的な負担が少しでも軽減されるよう、面接や面会の場面を通して訴えを傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供を行い、適切なサービスの利用が選択できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の中で生活を営んで来られた方々と「共に生活する」関係でありたいと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は本人と職員・地域のつながりを支えてくださる大切な存在であり、共に本人を支えていけるよう良い人間関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外出や外泊をされている方も居られる。地域の皆様の面会も多く、その際は居室でゆっくり過ごしていただいている。	家族と定期的に自宅への外出や外泊をしている。近くの洋品店やスーパー等にも職員と出掛けている。希望があれば馴染みの美容院にも付き添っている。知人、友人もよく訪ねて来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居されている方同士が支えあえるような雰囲気作り、関係性作りができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、地域で暮らす関係性には変わりはなく、相談等には丁寧に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の意見や希望も伺いながら、可能な限り本人のご希望に沿えるよう努めている。	職員は日々の関わりの中から、入居者の表情や態度、会話等から希望、意向の把握に努めている。又、家族からも面会の機会等に話し合い、本人本位に検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方から生活歴等をお聞きし、職員間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りや会議の際に観察した情報を共有し、実践の場で活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族にホームでの日々の生活をお話する機会を持ち、意見や要望をお聞きしている。ご家族や職員の意見が反映出来るよう取り組んでいる。	計画作成担当者は、職員とカンファレンスを行い情報収集をして作成している。家族からは、面会の時に要望を聞いている。モニタリングは、現場職員の意見を聞きながら行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や夜勤日誌、申し送りノート等活用し、ケアの実践や介護計画の作成に反映出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの商店や美容院等と係わりを持ち、地域の方たちと交流しながら暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診があり、入居者の方も馴染んでおられる。24時間緊急時の受け入れ態勢が可能であり、適切な医療支援や相談を受けることが可能。	協力医療機関の往診は月2回ある。協力医療機関以外をかかりつけ医とする入居者が一名いる。家族の希望に沿った受診をしている。職員が付き添い、受診結果は家族に報告し、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持った職員が3名居り、介護職と看護師は日々の健康管理や適切な受診ができるよう連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は頻繁に医療機関に出向き、状態の把握に努め、病院関係者と相談しながら、早期退院が可能であるよう連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期にご家族の意向を把握することに努め、医師・ご家族・職員と話し合う場面を設け、方針を共有できるように努めている。	グループホームとしての指針を示している。現在看取りの希望者が1名いる。段階毎に家族の希望を確認し、同意を得ながら対応していく方向で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修等で知識や技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火避難訓練を行っている。法人の各事業所の協力や支援も可能である。	消防署の協力により年2回避難訓練を実施している。又、入居者と職員による夜間訓練も1回行った。併設事業所の協力を得て実施し、全職員が避難方法を身につけている。スプリンクラーの取り付けも予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの「人格の尊重」は理念であり、誇りを傷つけない言葉使い等は、日々のケアの場面でも気になることは、お互いに注意しあいながら対応している。	一人一人の入居者を尊重する意味で、名前はきちんと性で呼んでいる。日常の関わりでは誇りやプライバシーに配慮し、本人の傍でさりげないケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと1対1で語り合う時間を持ち、思いや希望を伝える事ができる人間関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように暮らしたいかは本人のペースに合わせ、その日の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開設時より美容ボランティアの方が毎月来てくださっている。ご家族・ご本人の希望を伺い、行きつけの理容・美容をご利用の際は、送迎も可能である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる力を大切に、自主性を尊重しながら支援できるよう努めている。	食事は併設ケアハウスの栄養士が献立し、作っているが、汁物等メニューの一部は入居者の好みによりホームで独自に作る事が出来る。職員は声掛けをしながら介助や見守りをしているが、一緒に食事はしていない。	職員と入居者が一緒に食事をする事の出来る状況にある時は、一緒に食事を楽しむ事の出来る工夫が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取された食事量は記録している。状態に応じ個別記録を詳細に記載するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきは習慣になっている。本人ができない部分は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定時誘導を行うが、本人の訴えにはその都度対応している。	入居者一人ひとりの排泄パターンをとらえ、自立度に応じた、定時、随時の排泄ケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事の提供、水分補給、乳製品の摂取等に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった曜日はあるが、希望された場合は入浴可能。どの時間帯に入浴されるかは、本人の希望を聞いたタイミングにあわせている。	入浴は週3回となっている。本人の希望に合わせて、順番等も考慮した入浴介助が行われている。又、ヨモギ湯、菖蒲湯、ゆず湯等季節感を楽しむ入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣を大切にしている。起床や就寝は特に決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をその都度ファイルし、効能や副作用等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる能力を尊重し、支援を受けながら役割や楽しみを持ち生活できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来るだけ戸外に出られるよう支援している。定期的にご家族との外出や外泊を楽しまれる方も居られる。	雨の日以外は散歩に出掛けている。ユニット毎に計画を立て、出掛けている。年に1回はバスで「元気プラザ」へ桜の花見に出掛けている。散歩中に近隣の方との交流もある。近隣住民は土地柄、高齢者が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭を所持し、買い物援助の際本人が出し入れをされるよう支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所や食堂に電話があり、いつでも使用できる。ご家族に手紙を書く方も居られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強く差し込むときはカーテンを引いたり、テレビの音や音量にも配慮し、四季のしつらえ等環境作りに工夫をしている。	食堂には畳のコーナーがあり、落ち着いた雰囲気がある。デッキも広く、きれいな花が植えられ、洗濯物が干され、静かでゆっくりとした時間が流れている。廊下や玄関も明るく、居心地良く暮らせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす時間は大切に見守っている。廊下に置いたソファールにてくつろいでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のしつらえはご入居された際、家族や本人の好みに合わせ過ごしやすいように配慮している。	各居室には備え付けのカウンターがあり、思い思いに置物や花等を飾り、入居者の個性が出ている。使い慣れた品が持ち込まれ、入居者が好みを生かして生活出来るよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から屋内はバリアフリーで手摺りを設置、手押し車や車椅子の方でも、出来る力に応じて自由に生活されている。		